今月の
ブックトーク

2月（如月）「天皇誕生日」

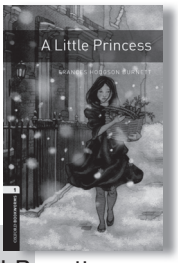
前田 由紀
／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

２月の和風月名は、如月（きさらぎ）です。由来は諸説あるようですが、代表的なものは、「衣更着（きさらぎ）とも言う。まだ寒さが残っていて、衣を重ね着する（更に着る）月」（出典:国会図書館HP「日本の暦」）ということらしいです。まだまだ厚着をして寒さをしのぐ時期ですが、お元気ですか。今月は、23日が天皇誕生日ということで、プリンス、プリンセスにまつわるお話を紹介したいと思います。

サン＝テグジュペリ・作
内藤 濯・訳
岩波書店（岩波文庫）

初めに、『**星の王子さま**』です。戦争中の1943年に出版されました。著者の献辞によると祖国フランスで戦時下にあった親友に宛てた物語で、「おとなは、だれでも、はじめは子どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。）」と述べています。純粋無垢な王子さまは、育てていた花とのいざこざから、星々を旅することになるのですが、いばった王さま、うぬぼれ男、呑み助、算術に忙しい実業屋など大人たちの行動が理解できず、「ほんとうに大事なものは目に見えない」ことに気づきます。ほんとうに大事なものとは何かを考えるきっかけにしてみてください。

『星の王子さま』の原題は、Le Petit Princeで、直訳すると「小さな王子」ですが、次は、『A Little Princess』。「小さなお姫さま」のお話です。著者は、英国出身でアメリカの作家バーネット。1905年に出版された古典で、日本では、『小公女』の題名で親しまれています。ロンドンにあるお金持ち向けの女子寄宿学校の生徒セーラは、小さなお姫さまと呼ばれていましたが、突然の父の死により全財産を失い、その学校の下働きとして長時間こき使われることになります。しかしその逆境にも勇敢に立ち向かい、やがてマジックが起きます。今回紹介するのは、英語学習者用の英語版（英検3級程度）です。よく知っている内容の物語だと読みやすいと思います。

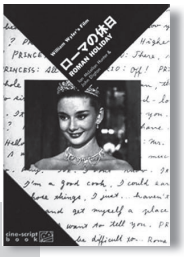


F. H. Burnett,
Oxford University Press
(Oxford Bookworms
Library Series)

彬子女王・著
PHP研究所
（PHP文庫）

『A Little Princess』は、オックスフォード大学出版局から出ていますが、今度は、オックスフォード大学の大学院で実際に博士号を取得された日本皇室のプリンセス彬子さまの留学記『**赤と青のガウン**』です。英国留学では、厳しい指導教授のもと孤軍奮闘の博士論文のご執筆やご専門の大英博物館の日本美術コレクションでの大発見、展覧会の展示準備を突然任されるなどのエピソードが満載。各章四字熟語で内容が表現されていて率直で軽妙洒脱な語り口に引き込まれます。英国のチュートリアルという教授との一対一の毎週の面談で、議論を深めていく方法も興味深いです。

最後は、1953年に公開された映画「**ローマの休日**」のシナリオです。某国の王女さまが、欧州親善旅行でローマを訪問した折に、制約の多い生活に嫌気がさし、こっそり深夜に大使館を抜け出し、偶然出会った新聞記者とローマの一日を満喫し恋に落ちるが・・・原題のRoman Holidayとは、そもそも古代ローマ人の休日ということで、他人を犠牲にした娯楽という意味だそうですが、結末は二人が犠牲を回避した気品のある作品となっています。



Ian McIellen Hunter
& John Dighron
マガジンハウス

※「今月のブックトーク」「図書館のこよみ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。